

No	日付	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
1	12月12日	評価書	3 2 -	ケーブルに関し、以下について説明すること。 ・同軸ケーブルについて、40年目の評価時点から、難燃性耐熱高周波同軸ケーブルが追加となっているが、その理由。 ・原子炉格納容器内布設の難燃PSHVケーブルについて、40年目評価では重大事故等（格納容器過温破壊、格納容器加圧破壊）の考慮がある一方、50年目評価では考慮がなくなった理由。 ・その他、設備変更、取替、新設等の実績（少なくとも、評価書上の記載の差異として現れる内容）がある場合は、その内容と理由。			
2	12月12日	評価書 補足説明資料	8 7-5	以下について説明すること。 ・高圧難燃CSHVケーブルの絶縁低下（水トリーを除く）の現状保全の評価において、40年目評価では絶縁診断（直流漏洩電流測定、tan δ 試験、シース絶縁抵抗測定、しゃへい層抵抗測定および部分放電試験）が記載されているが、50年目評価では削除されている理由を説明すること。 ・補足説明資料別紙7において、高圧難燃CSHVケーブルについて保全項目として、絶縁抵抗測定に加え、上記の絶縁診断が記載されているが、屋内外の布設箇所を問わずこれらの保全項目が同一なのか、あるいは、布設箇所等によって異なるのか説明すること。			
3	12月12日	評価書	5 6	以下について説明すること。 ・難燃KKケーブル、難燃PHケーブルの通常運転時の周囲温度、放射線線量率が40年目評価から変更となっている理由。 ・上記2種類のケーブル以外にも、使用条件が変更となっている場合は、同様にその理由。			
4	12月12日	評価書	18	表2.3-3「実布設環境での長期健全性評価結果」中の通路部布設の難燃PHケーブルの備考欄にある「59℃で評価」の意味を説明すること。	実付設環境条件である通路部の温度47℃にケーブルトレイの温度上昇値（12℃）を考慮した温度59℃として評価していることを意図している。		
5	12月12日	評価書	2	表1-1「高浜1号炉 ケーブル接続部の主な仕様」において、40年目評価では、気密端子箱接続は「設計基準事故（主蒸気管破断）を考慮する」とある一方、50年目の評価ではその記載がないが、理由を説明すること。			
6	12月12日	評価書	18	表2.3-1「ビッグテイル型電気ペネトレーション 長期健全性試験の条件」において「熱サイクル：95℃-47.5日間」とあるが、その根拠として、熱サイクル試験条件として、各サイクルの最低温度、最高温度及びサイクル回数並びにそれぞれの条件設定の根拠を補足説明資料に追加すること。また、これらの条件設定が参照しているIEEE Std. 317-2013の規定と相違がある場合は、その妥当性について補足説明資料に追加すること。			
7	12月12日	評価書	20	表2.3-5「外部リードの実布設環境での長期健全性評価結果」において、「実布設環境条件 温度 46℃」、同表の*2)において、「・・・ビッグテイル型電気ペネトレーション近傍の平均温度および平均線量率の最大実測値」とある。一方、補足説明資料別紙1.添付-1)によると、最大実測値は43℃であり、これに温度上昇を考慮して46℃としていると思われるが、このように異なる記載を行う理由について説明すること。	補足説明資料別紙1.添付-1)に記載のとおりであり、「高浜1号炉_補足説明資料（絶縁低下）別紙P1-4」の記載を適正化する。 また、評価書の表2.3-5についても上記と同様の方針で適正化する方針である。		

高浜1号炉 高経年化技術評価に係る審査コメント反映整理表(絶縁低下)

No	日付	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
8	12月12日	評価書 補足説明資料	23 35	表2.3-6「モジュラー型電気ペネトレーション 長期健全性試験の条件」において、「熱サイクル71～107℃-20日間」とあり、より詳細の内容が補足説明資料の添付-5)-2)に示されている。熱サイクル試験条件設定の根拠を説明すること。また、参照しているIEEE Std 317-2013の規定 (Thermal operating cycle simulation: The test specimen shall be subjected to not less than 120 cycles of temperature changes in the specimen of not less than 55 °C for each cycle) との関係も踏まえ、条件設定の妥当性を説明すること。			
9	12月12日	評価書	24	高圧ポンプモータの現状保全において、直流吸収試験、tan δ 試験及び部分放電試験の周期を「機器の運転年数に基づき (F種絶縁：約18.5～21.5)」短縮するとしているが、約18.5～21.5としている理由を補足説明資料別紙7添付-2)-1(1/4)の「代表機器の機器名、評価対象部位、保全項目、判定基準および点検頻度(1/4)」などに追加すること。	「高浜1号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙7添付-2)-1(1/4) P7-4」に記載する。		
10	12月12日	評価書	5	表2.1-1「高浜1号炉 ほう酸ポンプモータ主要部位の使用材料」において、固定子コイルと口出線の材料が40年時点の評価書の記載内容と異なっている理由を説明すること。	2015年にほう酸ポンプモータを更新し、固定子コイルの材料をポリエステルからポリエステルイミド及びポリエステルアミドイミドへ、口出線の材料をハイパーロンゴムからシリコーンゴムへ変更した。		
11	12月12日	評価書	7	実機における電動装置の駆動装置電気室内において、経年劣化あるいは事故時環境の影響を受けると考えられる高分子材料を使用した部位(絶縁電線等)がある場合は、その部位と使用材料を説明すること。また、それらの部位が評価上どのように考慮されているのか説明すること。			
12	12月12日	補足説明資料	11-1	補足説明資料別紙11において、「均等充電時の充電電流※の値により取替計画を設定」、「均等充電時の充電電流の値が〇〇を超えないこと」とあるが、この判断基準の技術的根拠(参照規格等)を示すこと。また、本判断基準は、CS形、MSE形に適用しているか、また適用可能な基準なのか説明すること。			
13	12月12日	概要パワポ	25	実布設環境での長期健全性評価結果(難燃PHケーブル)の表で、空白の部分があるので、(記載漏れではない事が分かるように)適切に措置をすること。	空白欄に「-」を追加した。 [概要説明資料 p.25] (概要説明資料のコメント反映整理表と同様)	1月18日	1月18日
14	12月12日	補足説明資料	-	PLM40で長期保守管理方針としていた低圧ケーブルの取替の実施状況を説明すること。	取替え対象ケーブルは、難燃PHケーブル1本であり、2020年に取替えが完了している。		
15	12月12日	補足説明資料	-	PLM40とPLM50の評価方法、評価条件、評価結果等の差異に係る資料を追加すること。			